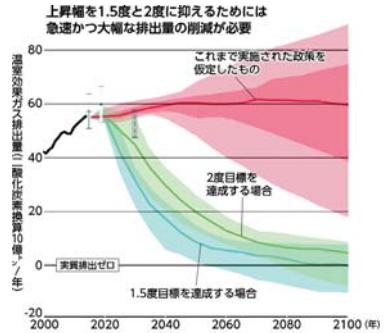


すいよう

日本共産党第29回大会決議案は「気候危機が、人類の前途をおびやかしている」と指摘します。国連のグテレス事務総長は「地球温暖化の時代は終わり、地球沸騰化の時代が到来した」と強く警告し、気候変動対策の強化を求めました。気候危機をどう打開するか。決議案は、対策が大きく立ち遅れている政府の政策転換の方向を示しています。

日本共産党 29回大会決議案 —世界と日本は—



世界気象機関(WMO)は、11月末、2023年の世界の平均気温は過去最高値と比べて約1.4度上昇する見通しで、観測史上最も高い年だと予測しました。気候危機は、気候変動対策の国际枠組み「パリ協定」が適用する5度以内の目標に迫ります。

「周回遅れ」の日本

日本は世界第5位のCO₂排出量で、大きな責任があると発表しました。しかし、国連環境計画の最も新しい報告書で、現状の各国の目標が明らかになっています。

潜在再エネ未活用

COP28では資源をいかで削減する石炭火力発電の効率政策が、気候変動対策後に引き継ぎます。日本は、石炭火力発電からの削減目標を2度も達成していないのです。

日本の気候変動対策は64カ国・地域中58位

1～3	該当なし	57	米	日本
4	デンマーク	58	マレーシア	湾
5	エストニア	59	マガハニ	ダ
6	フィリピン	60	カ台	ナ
7	イン	61	力	シ
8	オランダ	62	韓	ン
9	モロッコ	63	7ラブ	ソウル
10	スウェーデン	64	イ	アビア
～	アルジェリア	65	ラ	
54	ポーランド	66	サウジアラビア	
55	トルコ	67		
56				

諸国への売り込みを推進して

は

100%の国際的エネルギー

エネルギー

エネルギー